私は平和を望む

南中学校　三年　上谷　純令

七十四年前、広島市に一つの爆弾が落ちて街を、がらくたのような光景に変えました。それはとても一瞬だったそうです。

原爆が落とされた瞬間に亡くなった人。そのとき命があっても、原爆の火傷や怪我、有害物質によって体が蝕まれ、亡くなった人。十数万人にもなる人々の命を原爆は奪いました。被爆後の街の写真や絵を見て、こんなにも酷いものが、本当にあったんだと思うと、胸が苦しくなりました。

資料館に、被爆して亡くなった人とその人の家族とのことが書いてある所がありました。家族の後悔と、愛情が、優しくて、切なくて、見るのが辛かったです。あの爆弾が落ちなければ、こんな風に家族が引き裂かれることは無かっただろう、幸せが壊れることは無かっただろうと思う程、原爆の存在がどれだけ問題であるか、考えさせられもしました。

20 × 20

現在も、核兵器をつくり、実験をしている国があります。この実験で被害を受けている人々もいるそうです。それでは、原爆で亡くなったたくさんの命が報われないと思います。

またあの地獄の様な光景が何処かでつくり上げられたらと考えると、恐怖でしかありません。

私は平和を望みます。この体験で改めてそう思いました。資料館には、多くの外国人の方が居ました。その方々はきっと平和について考えてくれています。平和の形は、きっとどこの国でも同じだと思います。

どうか、世界が永遠に平和になりますように。もうこれ以上、人間が人間の幸せを奪うことがありませんように。

20 × 20